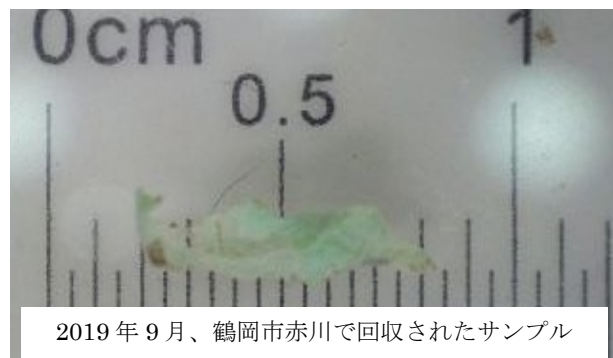


(活動報告書様式)

団体名	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス		
事業名	県内河川のマイクロプラスチックの実態調査とサイエンスカフェ開催による意識啓発活動		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型） 【テーマ：山形県自動車販売店リサイクルセンター 山形から発進！未来へつなぐ循環型社会づくり支援事業】		
団体の 所在市町村	酒田市	事業費	334,672 円
		うち助成金額	334,672 円



プランクトンネットを利用したサンプル採取



2019年9月、鶴岡市赤川で回収されたサンプル

■事業目的

プラスチックごみによる海洋汚染が進むなか、マイクロプラスチック（以下MP と略す）が各地で見つかり問題視されている。世界各地の海洋や河川で調査が進んでいるが、県内河川における調査は東京理科大学の二瓶教授がおこなった2ヶ所（最上川）のみとなっている。本調査では、NPO法人パートナーシップオフィスが赤川、最上川を巡ってサンプルを採取し、鶴岡工業高等専門学校佐藤司准教授に素材の分析を依頼。馴染み深い地域の河川におけるMPの実態を通してプラスチックと海洋ごみ問題を、身近な環境問題として広く普及・啓発する。

■実施内容

①サンプル採取

7月下旬～9月下旬にかけ

てプランクトンネット（目開き0.15mm）を橋梁から水面に下ろし最上川1ヶ所、農業用水路1ヶ所、赤川5ヶ所、合計7箇所サンプルを採集した。（写真左）

②サンプル分析

10月～11月にかけて、鶴岡工業高等専門学校佐藤司准教授協力のもと、採取したサンプルに含まれる微細片の素材分析を実施した。

③地域報告会（サイエンスカフェ）開催

12月19日に鶴岡駅前庄内産業振興センター・マリカ東館にて報告会を開催した。

④報告リーフレット作成と配布

調査内容をまとめたリーフレットを1000部作成し、県内の教育機関などに郵送した。

■事業成果及び今後の展望

①事業の成果

調査を行った7箇所のうち、5箇所で人工物と思われる破片が8個見つかった。8個の破片のうち、5個は合成ゴム、2個はナイロン（写真右）、1個はポリ塩化ビニルと推定された。ゴム手袋やゴム長靴など、屋外で使われているゴム製品が発生源と予想される。地元紙にも取り上げられ調査結果を広く社会に発信することができた。

②今後の展望

調査ポイント数が少なく、プランクトンネットが藻類・微生物で目詰まりし、濾水量を確保できず定量的なデータが取れたとは言い難い。機材の改良を行い、調査数を増やして正確性を上げていく必要がある。市民と研究機関が連携して調査の輪を広げていくモデルとして提案して行きたい。